

米国の Competency-Based Education の事例分析

—社会人の学び直しにおける共通性と多様性—

塚原 修一（関西国際大学）

日本には社会人の学び直し（リカレント教育）が普及していない。社会人学生は11万人と少なく（2015年度）、大学入学者のうち25歳以上の比率は2%で OECD 各国平均の18%（2012年度）より小さい（文部科学省 2015）。大学教育と職業の関係には、各国にみられる職業知モードと日本の J モードがある（金子 2007：132-139）。各国では大学教育と職業の関係が強く、何らかの職業につくために大学で職業準備教育を受けることが年齢によらずあり得る。一方、日本のとくに大企業では、職務に必要な知識・技能を企業内教育により学ぶため、社会人が大学で教育を受ける機会は乏しい。この差異が主な理由と考えられる。

社会人の教育に政府が無関心であったわけではない。社会教育は戦前からあった（上杉 2011）。生涯学習体系への移行は臨時教育審議会（1984-87年）の主要課題のひとつであり、答申にそって大学等への社会人の受け入れが推進され、生涯学習政策局が文部科学省におかれた（2001-18年）。厚生労働省の教育訓練給付制度では、職業に関する教育訓練講座の修了者に費用の一部を支給する。しかし、これらによって社会人学生はあまり増加しなかった。

今後は、非正規雇用の増加などによる職業能力の弱体化、情報技術の進歩による職業構造の変化などに対応して、社会人の学び直しが推進される可能性があるが（内閣府 2019：63）、上記の経緯からより本格的な対策が求められよう。こうした状況において有意義な研究対象として、社会人教育を実施する先進的な国内事例と、上述のモードの差異をこえて日本が参照できる国外事例が考えられる。本稿は後者の一部であり、米国の Competency-Based Education（CBE、成果基盤型教育）を取り上げ、後述する社会人教育の障害の克服に資する可能性を検討する。

1. 社会人教育の研究動向

伝統的な子どもの教育学（pedagogy）に対して、大人の教育学を成人教育学（andragogy）という。その古典とされる Knowles et al.（2015：40-47）によれば、成人（社会人）の教育では、教育の内容や計画を学習者が自己決定する。すなわち、社会人の教育需要が議論の出発点となる。

文部科学省の大規模な委託調査（イノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社 2016：15, 23）によれば、社会人教育未経験の社会人のうち7.8%が「大学等で学び直しを行いたい」、29.8%がそれに「興味がある」と回答した。学び直しへの障害は、回答が多い順に（以下も同じ）「費用が高すぎる」が37.7%、「勤務時間が長くて時間が無い」が22.5%であり、学び直しの必要条件は「インターネットなどによる授業」が29.0%、「授業料等の免除や奨学金等の充実」が26.9%、「土日祝日、長期休暇などでの開講」が25.8%、「通学に便利な場所」が24.0%である。また、大学等に通う社会人学生の職場への希望は「卒業資格を評価する仕組み」が46.6%、「授業に出席できる柔

軟な労働時間」が41.5%、「授業料の補助」が28.9%である。すなわち、学び直しの潜在的志願者は存在するが、時間（通学場所を含む）、費用、職場の理解（と評価）の3つが普及の障害となる。

社会人教育に関する先行研究は数多い。国立教育政策研究所教育図書館の教育研究論文索引から検索語ごとにみれば、「生涯」が9,582件、「成人」が1,604件、「社会人」が681件、「継続」が474件、「リカレント」が94件である（2020年8月26日に実施）。「社会人」で検索された論文を中心にみると、政策動向には戸澤（2008）、塚原・濱名（2017）、奥村（2019）、岩崎（2020）などがある。その他の多くは国内の教育課程に進学した社会人学生の特色、課題、対策などにかかわり、社会人教育の障害を克服する本格的な対応策に関するものは発見できなかった¹⁾。

2. CBEの先行研究

(1) 国内の先行研究

国内の先行研究には山田（1999）、森（2015）、青木（2017）、溝上（2017）、山田（2017）、五島（2020）があり、いずれも米国を対象とする。それらの概略は次のようである。CBEの定義は確立していない（森 2015）。しかし大まかには、学修成果である知識・技能・態度などをあらかじめ定め、その修得・達成によって科目や課程の修了を認定するものである（青木 2017）。真正な（authentic）評価とされ、進度が柔軟で授業の時間を基礎とする単位制度に対比される（山田 2017）。大学外の学修成果の単位認定（経験学習評価、Prior Learning Assessment）もなされる（山田 1999、溝上 2017）。教員と専任の学習支援者が配置される（青木 2017）。CBEは新しいものではないが、21世紀に入ると、連邦学生奨学金の説明責任、高等教育経費の削減、オンライン（非対面）教育の普及などにより注目された（森 2015、五島 2020）。2013年に連邦学生奨学金の対象となり、2015年には認証の枠組として学修成果を単位に換算する方式と直接に評価する方式が提示された（山田 2017）。

(2) CBE課程の全米調査

この調査は米国研究協会（American Institute for Research）が実施した。米国の4年制と2年制の全大学に調査票を送り、CBE課程を設置する大学、それを準備中の大学、それに興味がある大学など602校が回答した（Mason and Parsons 2019 : 7）。2018年につづく2回目の調査である。

その結果によれば、2019年には米国内の64大学に588のCBE（学位ないし履修証明）課程があり、前年の57大学、512課程から増加した（*ibid.* : 3, 11）。学校段階は学士・準学士課程が84%、大学院課程が16%である（*ibid.* : 11）。教育の形態は37%が完全な非対面、26%が対面と非対面の混合、18%は対面が中心で非対面も用いる、19%が完全な対面で、CBEと非対面は同義ではない（*ibid.* : 24）。CBE課程の77%は認証されて連邦学生奨学金の対象である。認証の方式は単位換算が76%、直接評価が18%、その他が6%である（*ibid.* : 31）。

設置後の期間は、大学ごとの回答で2年以下が27%、3から4年が21%、5から7年が12%、8年以上が27%である（*ibid.* : 45）。規模（前年の入学者数）は50人以下が53%であるが、1,001人以上が12%、500-1,000人が11%、201-499人が18%と大きいものもある（*ibid.* : 47）。CBE課程をもつ大学のうち以下の学士課程があるものの比率は、看護・健康専門職課程が42%、計算機・情報

科学課程が35%，経営管理課程が34%，教育学課程が23%である。これについて報告書は，看護・健康専門職と経営管理は学士課程の全体にしめる比率も大きく，計算機・情報科学は急成長のさなかにあり，CBEに適した領域というより人材需要の大きさの反映であるとする (ibid.: 26, 46)。

CBE 課程を設置した理由 (設置中の大学の回答を含む) は，非伝統的学生の進学機会の拡大 (57%)，学修成果の改善 (54%)，労働需要への対応 (53%) が多い (ibid.: 17-18)。CBE 課程の設置に対する障害は大学によって回答が異なった。障害になったとする回答が50%をこえた選択肢を多い順にあげれば，CBE 課程を設置した (または設置中の) 大学の回答は，CBE 課程の設置費用，連邦の奨学金制度，学内の優先順位の低さ，学内の経営体制の順であり，学内外の要因があげられた。一方，CBEに興味はあるが導入していない大学では，学内の優先順位の低さ，CBEの専門家が学内に不在，学内の経営体制，設置費用と，学内要因のみがあげられた (ibid.: 33-36)。

学内の在来課程との比較では，既修得単位をもつ学生が多い，25歳以上の学生が多いという回答が30%をこえる (ibid.: 29)。学費は在来課程とくらべて同額が56%，安いのは37%である (ibid.: 31)。今後5年間の見通しについて，調査に回答した大学の76%はCBEが増加するとした (ibid.: 38)。

3. CBE 課程の共通性と多様性

(1) 事例となる CBE 課程の概要

国内の先行研究はCBEに関する米国の制度や政策を扱い，米国の現状は全米を一括した集計結果が示された。これらをふまえて本稿では，複数の米国大学の事例を比較してCBE課程の共通性と多様性を明らかにする。事例の紹介は国内の先行研究にもあるが，簡潔すぎて比較しにくい²⁾。昨今の状況から現地調査にかえて，非営利団体の成人経験学習評議会 (Council for Adult and Experimental Learning) が2014-16年に実施した9件の事例調査をとりあげ，それぞれ10頁程度にまとめられた報告書を分析した。事例の概要を表1に示す。大学等の名称のうち，テキサスの課程は州内の2大学が協力して開発した。大学が所在する州は分散し，設置形態は公立4，私立5，学校段階は準学士課程2，学士課程4，修士課程3，CBEの開発年はいずれも2010年代である。領域は職業系1，情報技術2，経営管理4，教員養成2で，領域の構成は看護・健康専門職課程が

表1 事例となる CBE 課程の概要

大学等の名称	ソルトレイク CC	ロードフェア ファクスCC	パース大学	リブスコム 大学	テキサス値 頃学位課程	ブランドマン 大学	ダベンポート 大学	バルドスタ 州立大学	シアトル 都市大学
所在する州	ユタ	バージニア	ペンシルバニア	テネシー	テキサス	カリフォルニア	ミシガン	ジョージア	ワシントン
設置形態	公立	←	私立	←	公立	私立	←	公立	私立
事例となる課程	準学士の 短期課程	準学士課程	学士課程	←	←	←	修士課程	修士の履修 証明課程	修士課程
その開設年	2015	2015	2016	2011	2014	2014	2015	2016	2012
領域	職業系	情報技術	←	経営管理	←	←	←	教員養成	←
認証方式	直接評価	←	CBE化以前の 認証を維持	単位換算	←	直接評価	←	未申請	単位換算
(地域) 認証 団体	北西部	南部	中部	南部	←	西部	←	大学経営教育 国際会議 南部	北西部
実質的変更申請	しない	した	しない	? (旅)	した	←	←	←	した
連邦学生奨学金	資格なし	資格あり	←	←	←	←	←	申請中	資格なし
資格あり									資格あり

注 CCはコミュニティカレッジ。

ないことを除いて母集団にそっている。

(2) 認証と連邦学生奨学金

CBE 課程の制度的要件を表 1 の下段に示した。CBE 課程の多くは地域認証団体による認証の対象で、ダベンポート大学の経営管理修士課程のみが分野別認証である。認証方式は単位換算が 3、直接評価が 2 で、後者は難度がより高いとされる。CBE 課程の設置は重要な変更とみなされ、4 大学が地域認証団体から実質の変更申請 (substantive change proposal) を求められた。リップスコム大学の事例報告書にその記述はないが、認証の取得を「旅」と表現していて、申請を求められたと推測される。一方、ソルトレイクコミュニティカレッジ (以下では CC と記す) とパース大学は地域 (それぞれ北西部と中部) 認証団体から申請を求められず、対応に差がある。連邦学生奨学金の資格は 6 大学が有する。ダベンポート大学は申請中である。ソルトレイク CC は他の財源による学生支援があること、バルドスタ州立大学は学生が現職教員で収入があることを理由に、CBE 課程を連邦学生奨学金の対象としていない。

(3) 事例となる CBE 課程の共通性

事例には CBE 課程としての共通性があり、一連の報告書にも類似の記述が反復されている。先行研究と重複する個所もあるが、主な共通点は次のようである。

a. CBE 課程の構築

CBE 課程の構築は、教育課程の領域の決定、コンピテンス (学修成果群) の明確化、コンピテンスを修得させる科目の設計、コンピテンスの修得を確認する評価の開発という段階をふみ、教員の意識改革と 1 年以上の作業を要する³⁾。

b. 学内の体制

教員と学習指導員 (コーチ) を配置する。教員は学生を指導し、教育内容や評価に責任をもつ。学習指導員は教員または職員で、学生を支援し、学習の進行を管理して進捗をうながす。コンピテンスから単位への換算は、認証方式のひとつであるほか、学生が単位制の課程に進学・転学するさいに必要なため、認証が直接評価方式の課程でも用意されている⁴⁾。学生管理 (履修登録、単位認定、奨学金申請など) が在来課程とは異なり、大学の情報処理システムに負担をかける⁵⁾。

c. 学生の入学と学習活動

志願者の適性を初期評価により判断する事例が多い。バルドスタ州立大学は「自発的で独立した学習者であって、読み書きの高い能力と、時間管理の能力が必要」とするが、他大学も同様であろう。既修得単位の認定や経験学習評価をへて、学生・教員・学習指導員が学生ごとに履修計画を作成する。授業料は科目ないし学期ごとに設定される。ウェブにある無償・安価な教材を用いて教科書代を節約する。授業科目はコンピテンスに分解され、学習はコンピテンスごとに事前評価、履修、事後評価の段階をふむ。事前評価が良好ならば履修せずに事後評価にすすむ。そうでなければ事前評価が低い部分を履修して事後評価にのぞむ。事後評価に合格すれば次のコンピテンスに取り組み、すべてのコンピテンスを完了すれば次の科目にすすむ。これを反復して修了にいたる⁶⁾。

(4) 事例となる CBE 課程の多様性

事例となった CBE 課程には個性があり、開設の経緯、コンピテンスの枠組、教育内容、評価の手法、運営方式などに多様性がみられる。主要な事項を表 2 にあげ、詳細は領域別・学校段階別に整理して附録とした⁷⁾。

a. コンピテンス枠組

表 2 の①である。学士課程の一般教育では、ルミナ財団の学位資格枠組（パース大学、ブランドマン大学）と、米国大学協会の学修成果評価表（パース大学、テキサス値頃学位課程、ブランドマン大学）が用いられる。テキサスの事例は正確にはこれに準拠したテキサス共通教育課程である。

専門教育では、就職先となる業界の標準（ソルトレイク CC）、課程に関連する専門学協会の標準（ロードフェアファクス CC、パース大学）、労働省が情報提供する産業標準（パース大学、ブランドマン大学）が用いられる。経営管理領域には、民間企業が作成したコンピテンス枠組（リプスコム大学）、民間の学修成果試験の基準（ダベンポート大学）、地元の産業界の調査結果（テキサス値頃学位課程）などもある。教員養成領域は、専門ごとの教員集団の標準（バルドスタ州立大学）、州政府の基準（バルドスタ州立大学、シアトル都市大学）などが用いられる。

b. 教育の特色

表 2 の②である。パース大学は学士の取得にいたらない学生のために準学士を用意する。リプスコム大学には 1 日 8 時間を要する初期評価科目（受講料 1,500 ドル）があり、6 人 1 組で職業を模擬した活動を行い、評価により 30 単位まで獲得できる。テキサス値頃学位課程では 1 学期を 7 週間、年間 6 学期とする。ブランドマン大学では一般教育科目、経営中核科目、専攻科目のすべてを含む学習束（bundle）ごとに履修する。バルドスタ州立大学の学生は現職教員であり、現任校での授業のビデオ映像などを学修成果として評価する。シアトル都市大学は数個のコンピテンスを含む学習塊（learning block）として科目を提供し、25 名以内の学生が協力しながら学習する。

表 2 事例となる CBE 課程の主な多様性

・ソルトレイク CC	①業界で受け入れられる学修成果の標準を課程ごとに特定。②対面とオンラインの混合課程。授業時間は課程により 150-800 時間。社会人学生の多くは雇用主や労働省系機関から支援が得られる。③④とも認める。
・ロードフェアファクス CC	①米国診療情報管理学会、国際計算機学会、米国秘書協会。②大学の水準に到達していない学生には補習教育を実施。③認める。④職業経験、軍人経歴、外部資格試験合格。
・パース大学	①ルミナ財団の学位資格枠組、米国大学協会の学修成果評価表、労働省が情報提供する産業標準、国際計算機学会の基準。②一般教育は単位制、専門教育のみ CBE。専門教育は 10 科目完了で準学士、36 科目完了で学士を授与。③記述なし。④外部資格試験合格。
・リプスコム大学	①国際組織システム社の経営コンピテンス枠組「ボラリス」から 17 を選択。②職業専修学科は CBE 45 単位を含む高学年の 66 単位を提供。初期評価科目は 1 日 8 時間を要し、6 人 1 組の職業模擬活動により 30 単位まで与える。③ 2 年以上の実務経験をもつ準学士が対象。④上記の初期評価科目で 30 単位まで。
・テキサス値頃学位課程	①テキサス共通教育課程（米国大学協会の学修成果評価表に準拠）、地元の産業界の調査結果。② 1 学期は 7 週間て年に 6 学期。③④で合計 90 単位まで。
・ブランドマン大学	①ルミナ財団の学位資格枠組、米国大学協会の学修成果評価表、労働省が情報提供する産業標準に準拠。②一般教育科目、経営中核科目、専攻科目のすべてを含む学習束（bundle）ごとに履修。③④の記述なし。
・ダベンポート大学	①ベリグリン社の総括評価試験の基準から 39 単位相当の 13 コンピテンスを抽出。②修了研究として戦略的経営のコンピテンスを履修。③ 9 単位まで。④ 18 単位まで。
・バルドスタ州立大学	①全国数学教員協議会・全国理科教員協会の標準、州政府の意向。②授業計画の作成、現任校での授業のビデオ映像、これらの活動の報告書などにより評価。学区が現職教員の就学を支援するため奨学金は不要。③④の記述なし。
・シアトル都市大学	①在来の修士課程から抽出して改良。州政府の基準、学区の要望に準拠。②数個のコンピテンスを含む学習塊（learning block）として科目を提供し、25 名以内の学生が協力しながら学習。③④の記述なし。

注 ①コンピテンス枠組、②教育の特色、③既修得単位認定、④経験学習評価である。

c. 既修得単位認定と経験学習評価

表2の③と④である。職業領域のソルトレイク CC は両者とも認めるが詳細な記述はない。情報技術領域では、ロードフェアファクス CC は既修得単位を認定し、職業経験や軍人経歴などを単位に認める。パース大学は、学外で資格を取得すると対応するコンピテンスを合格とする。経営管理領域では、前述したリプスコム大学の職業模擬活動は経験学習評価の学内版ともいえる。テキサス値頃学位課程は両者で90単位まで認める。ダベンポート大学は既修得単位を9単位まで、経験学習を18単位まで認める。教員養成領域には記述がない。すなわち経営管理領域は、既修得単位認定と経験学習評価の単位数を明示して積極的である。ブランドマン大学はその例外であるが、上述の学習束が理由であろう。

(5) 情報技術領域と経営管理領域の対比

金子(2007:132-135)によれば、米国など職業知モードの国では、大学は職業に関連する理論的知識と、職業に必要な職業関連知識を与え、学生は卒業後にこれらをもとに職場技能(実践的な知識・技能)を身につける。このような大学と職場の役割分担において、社会人教育は、職場技能をもつ者が、職業関連知識と職業に関連する理論的知識を大学で学ぶことを意味する。

事例としてとりあげた情報技術領域はこれに適合している。専門教育のコンピテンスは専門学協会の標準に準拠し、学士までの途はけわしく、既修得単位認定と経験学習評価には抑制的である。一方、経営管理領域の状況は異なる。準拠するコンピテンス枠組がひとつではなく、既修得単位認定と経験学習評価に積極的である。上述した3つの知識・技能のうち、理論的知識は大学で学びやすいもの、職場技能は職場で身につけやすいもの、職業関連知識はその中間にあって、大学と職場の双方で学べるものと想定される。そのなかで、情報技術の大学教育は理論的知識の比重が大きく、経営管理のそれは職業関連知識の比重が大きいことが考えられる。すなわち、大学教育は職業にかかわる理論的知識と職業関連知識を与えるが、両者の均衡には領域による差異があり、それが社会人教育にあらわれたと解釈される。この点で、一般教育科目、経営中核科目、専攻科目のすべてを含む学習束(bundle)ごとに履修するブランドマン大学の方式は、経営管理領域における社会人教育の内容を、一般教育や理論的知識を含むものに拡張する方策と位置づけられよう。なお、以上の対比はCBE課程の分析によって見出されたものであるが、CBE課程に限定されないものと筆者は考えている。

4. 日本への示唆

これまでの大学教育と職業の関係は、各国の専門知モードと日本のJモードのいずれも、現代社会の変化の要求に答えられなくなっている(金子2007:139)。それゆえ、社会人教育の強化は日本の新たな選択肢として検討に値する。社会人教育の3つの障害(時間、費用、職場の理解)のうち、時間の障害を柔軟な進度によって克服する教育方式がCBEである。さらに、米国の経営管理領域にみられた既修得単位認定と経験学習評価は、学修の代替によって在学期間を短縮して費用の障害を軽減する措置でもある。このうち既修得単位認定については、対象となる高等教育の中退者が日本には少ない。経験学習評価は、日本の専門職大学制度において、実務経験のある入学者は一

定期間を修業年限に通算できる制度（修業年限の通算）がつくられた。日本の教育制度はCBEを認めていないが、仮に認められたとして、実現への課題は全米調査と事例調査に示された通りである。その一方で、現行の教育活動においてCBEを部分的に活用することも考えられる。たとえば、CBE課程には学修成果の評価をオンラインで行うものがあるが、この方式はコロナ禍にある日本の高等教育にも有用であろう。

【附録】 以下は個別事例の概要であり、事例による差異がみられた部分を中心に領域別・学校段階別に整理した。

1. 職業・情報技術領域

(1) ソルトレイク CC 応用技術科

ユタ州立応用技術校の一部が2009年に公立大学の学科となった。技能者の速成教育を目的とした短期課程で準学士は授与しない。CBE課程への移行は2012年に構想され、労働省の助成を得て開発をすすめ、10課程（電子計算機支援員、ネットワーク管理者、ネットワーク基盤技能員、臨床検査補助員、臨床医療補助員、医療事務員、管理事務員、診療情報管理士、診療報酬請求事務員、大型ディーゼル車保守技能員）を2015年に開設した⁸⁾。そのときには、業界で受け入れられる学修成果の標準を課程ごとに特定し、業界の協力者から助言を得てコンピテンスに分解して、定義と評価方法を決定した（Wertheim 2016 : 1-5）。

CBE課程は混合課程である。毎週月曜日に科目の登録を行う。学生は週に15時間以上は学習に専念し、学習指導員と定期的に連絡し、週に1回は登校して教員にコンピテンスを示すことが求められる。授業料は1か月または3か月ごとに支払い、科目をいくつでも修得できる⁹⁾。学生の平均年齢は34-35歳である。学生募集の広報資料にはCBE課程の特徴を述べて志願者が適性を判断できるようにし、既修得単位の認定や経験学習評価にも言及している（*ibid.* : 1, 3, 6, 7）。応用技術科は大学の一部として認証を得ているが、連邦学生奨学金の対象ではない。仮に対象であっても、社会人学生の多くは奨学金の進歩の要件（毎学期の取得単位数の下限）をみたせない。一方、社会人学生の多くは雇用主や労働省系の機関から支援が受けられる（*ibid.* : 7）。

(2) ロードフェアファクス CC

バージニア州の公立大学である。労働省の助成を得て「仕事のための知識」（Knowledge to Work）事業を2014年に開始した。その一環としてCBE課程を開発し、無料・低額な教材に関するポータルサイトを公開した。CBE課程は、診療情報管理と情報システム技術の準学士課程と、5つの履修証明課程を2015年に開設した。コンピテンスの枠組は米国診療情報管理学会、国際計算機学会、米国秘書協会に準拠し、地域の雇用主の意向にそってコンピテンスを追加した。教員はコンピテンスの評価方法と評価基準を作成して検証した（Council for Adult and Experimental Learning 2016 : 2-4）。

志願者は初期評価を受け、学習指導員と面談してCBE課程への適性を判定される。学習指導員は入学後の履修登録、奨学金の申請などについて学生を支援する。また、学生と協力して職業経験、

軍人の経歴、学校の成績証明書から経験学習評価の候補を抽出し、教員がそれを確認する。外部の資格試験に合格すれば、対応するコンピテンスが獲得できる (ibid. : 6-7)。大学の水準に到達するために学習が必要な学生には成人基礎教育指導員が対応する¹⁰⁾。学生は提供された個人別の学習計画にそって数学、英語、読解力などを自分で学ぶか、それらの科目を履修して単位を取得する。認証は直接評価方式でなされ、連邦学生奨学金の対象である。成績表には獲得したコンピテンスの一覧と、換算した単位数を科目ごとに記載する (ibid. : 8-9, 13-14)。

(3) パース大学

ペンシルバニア州の私立大学である。情報技術 (ネットワーク、管理、サイバーセキュリティの3専攻) の非対面の学士課程を2016年にCBEへと転換した。コンピテンスは既存の教育課程の学修成果を分解して能力要素を抽出した。学修成果と評価の枠組は、ルミナ財団の学位資格枠組、米国大学協会の学修成果評価表、労働省の情報提供サイトにある産業標準、国際計算機学会の資料を参照した。CBE課程はフラットワールド社 (学習管理ソフトウェア会社) と共同開発した。CBE課程は、秋、春、夏の学期に15週ずつ提供される。卒業の要件は120単位で、一般教育が15科目43単位、専門が36のコンピテンスからなる。一般教育は一部がCBEで、他はCBEでない非対面の科目で提供され、経験学習評価を認める。専門教育はCBEであり、10科目 (33単位) の完了で準学士が、さらに26科目 (45単位) を完了すれば学士が授与される (Green 2016 : 1-4)。

学生は2年以上の情報技術の経験者を想定し、自営業者が適している。志願者は初期評価によって適性を判定される。進度は学生によるが、1学期に6単位以上を登録する必要があり、上限はない。コンピテンスの完了は口頭発表や筆記試験によって主に評価されるが、学外の資格試験の合格や事例研究によっても完了できる (ibid. : 5-7)。教育課程における教員の役割は、学生との相談時間の開設、学生への個別指導、評価結果の迅速な通知と対応、非対面での学生との討議、学生との連絡の維持である。学習指導員は常勤者で、1名が学生100名を受け持ち、毎週1回は学生と連絡して教員による学生支援を補完する。現在の学習指導員は情報技術と臨床心理の修士号をもつ教員であるが、この者は評価に関与しない (ibid. : 7-8)。学費は1学期あたり3,000ドルで、在来課程で6単位を取得する費用 (3,768ドルと教科書代) より安い。認証は教育課程をCBE化する以前のものが維持され、連邦学生奨学金の資格がある (ibid. : 8)。

2. 経営管理領域

(1) リプスコム大学

テネシー州の私立大学である。社会人向けの成人学位課程 (Adult Degree Program) を1990年に開始し、2011年に職業専修学科 (College of Professional Studies) とした。CBE課程はCORE (Customized, Outcome-based, Relevant Evaluation, 学修成果を個人別に適切に評価する) 課程と呼ばれ、組織統率の職業専修学士と、総合領域 (Integrated Studies) の理学士または文学士を授与する。コンピテンスは国際組織システム社のポラリスを導入した。多くの職業に共通するコンピテンスを7領域の41にまとめたもので、地元の産業界からの助言と、授業での試行をへて17を選択した。このうち15はいわゆるソフトスキルである (Klein-Collins and Olson 2014 : 2-3)。

CORE 課程の主な対象は、専攻する領域で2年以上の職業経験をもつ準学士である。職業専修学科は、卒業に必要な126単位のうち後半の66単位を提供する。このうち45単位はCBEによって取得する。その内訳は、汎用的な6コンピテンス（人間関係構築、問題解決と意思決定、組織化と計画、影響力、意思疎通力、気力・精力）各3単位計18単位、専門科目は専攻（老年学、実業、心理学、刑事司法など）ごとに必修2コンピテンスと選択6科目（各3単位）の計24単位、卒業研究3単位である（ibid. : 2, 5-6）。

入学者は、1日8時間を要する初期評価科目を評価センターで受講する。6人が1組となり、職業を模擬した集団活動2種、個人活動4種を行い、3名の評価者が15のコンピテンスについて評価する。この科目で30単位まで取得でき、結果をふまえて学習計画をたてる。認定されたコンピテンスにはデジタルバッジ（認定証）を授与する（ibid. : 4）。授業料は初期評価科目が1,500ドル、それ以外は1単位499ドルである。経費はポラリスの導入、評価センターの設営、評価者の訓練などに7万ドルを要した。認証は単位換算方式でなされ、連邦学生奨学金の資格がある（ibid. : 7-8）。

（2）テキサス値頃学位課程

2011年にテキサス州知事が1万ドルで卒業できる学士課程の開発を求め、テキサス州高等教育調整委員会、南テキサス大学、テキサス A&M 大学コマース校が表記の課程（Texas Affordable Baccalaureate Program）を開発した。開発に外部の財団から百万ドルの助成を得た。州内の労働市場の分析や産業界の調査から学士号をもつ中間管理職の需要を確認し、従来の経営学があまり認めなかった技術系の準学士や管理職の経験を単位に認定して、応用学士号を授与する組織統率コースを2014年に設置した（Klein-Collins and Glancey 2015 : 1-3）。

当初はCBE課程90単位（一般共通科目42単位、選択科目48単位）、混合課程の専門科目30単位として設計し、のちに混合課程もCBEとした。コンピテンスは2段階にわかれ、低学年は一般共通教育72、選択領域19、高学年は8群（人間関係技能、組織行動、問題解決・意思決定、変化の管理、資源管理、戦略・実施の管理、情報活用、統計学・応用研究）からなる。教育課程の設計は、テキサス・チューニング・プロジェクト、州政府が開発したテキサス共通教育課程（米国大学協会の学修成果評価表に準拠）、地元の産業界の調査結果を参照した。教育課程の非対面化と評価枠組の作成はピアソン教育社に依頼し、教員が内容を確認した（ibid. : 4-9）。

卒業に必要な単位の75% [90単位] までを準学士号、既修得単位の認定、経験学習評価により認める。1学期は7週間で年に6学期が提供される。1学期の学費は750ドルで、科目をいくつ履修してもよいが2科目（6単位）が普通である。大学の学習経験のない学生は修了に3年と13,500-15,750ドルを要する。高学年の30単位のみを履修する学生は1年間で4,500-6,000ドルである。認証は単位換算方式でなされ、連邦学生奨学金の資格がある（ibid. : 6-11）。

（3）ブランドマン大学

カリフォルニア州の私立大学である。2011年にCBEに注目し、2014年に完全な非対面のCBEによる経営管理の学士課程を新設した。1千名の学生調査の結果から経営管理分野の4専攻（情報システム管理、供給連鎖経営管理、経営と組織統率、市場活動）を選択した。コンピテンスの枠組

は、ルミナ財団の学位資格枠組、米国大学協会の学修成果評価表、労働省の情報提供サイトにある産業標準を参照した。コンピテンスの数は一般教育が6領域13、経営中核科目は7領域34、専攻科目は領域により9から14である (Olson and Klein-Collins 2015 : 2-5)。

志願者は3週間の入門科目に合格する必要がある。学生は学習束 (bundle) ごとに履修する。学習束にはコンピテンスに対応した4から11の単元が含まれる。単元には学習の順番が指定され、すべての単元を完了したのちに次の学習束にうつる。ひとつの学習束には、一般教育科目、経営中核科目、専攻科目のすべてが含まれる。コンピテンスは試験、調査報告書、制作物などによって評価され、理解による評価が40%、応用による評価が60%をしめる。専攻領域により、56から61のコンピテンスを完了すれば学位が取得できる (ibid. : 5-7)。CBE 課程は6か月間の2学期に編成され、いつでも月曜日から開始できる。授業料は1学期2,700ドルで、一般的な学生は30か月以内に学位を取得できる。認証は直接評価方式でなされ、連邦学生奨学金の資格がある (ibid. : 7-10)。

(4) ダavenport大学

ミシガン州の私立大学である。2015年に経営管理修士課程を非対面のCBE課程に転換した。転換前に使用していたペリグリン社の総括評価試験の基準から、39単位にあたる、12の専門的コンピテンスと1つの人間開発コンピテンスを抽出した。すなわち、経営感覚 (会計、財務、経済学、市場活動、量的経営分析)、経営管理 (経営法規と倫理、人事管理、情報管理、生産管理、国際的な諸次元)、戦略的統率 (組織統率、戦略的経営)、および人間開発である (Plumlee 2016a : 2-4)。

入学者は、学士課程の成績 (GPA) が2.75以上で、3年以上の専門的経験がある者を想定する。既修得単位を9単位まで、経験学習評価により18単位まで認める。各コンピテンスは6から10の単元からなり、単元ごとに合否を評価する。学生はまず2つのコンピテンスに取り組む。単元の67%に合格すればそのコンピテンスは完了して次にすすむ。単元は3学期以内に合格しなければならない。1学期に67%以上の単元に合格しなければならない。修了研究として戦略的経営のコンピテンスを履修する。修了までに平均して20か月を要する。授業料は学期あたり4,000ドルで、4学期で修了すれば16,000ドルであり、CBEでない非対面の課程より5,000ドルほど安い。認証は大学経営教育国際会議 (IACBE) によりなされた (ibid. : 1, 5-10)。

3. 教員養成領域

(1) バルドスタ州立大学

ジョージア州の公立大学である。CBEによる修士段階の履修証明課程を2016年に開設し、現職の小学校教員を対象に理科・数学教育の追加資格を授与する。その構築に州教育省は20万ドルを提供し、ジョージア州立大学機構の支援と、近隣の2学区から協力を得た。この領域を選択した理由は、到達目標が州の基準として明確であること、学生が少数で特定化できること、理科・数学教育の追加資格を獲得すると州の補助金が増額されるため学区が現職教員の就学を支援すること、それゆえ奨学金を必要としないことである。コンピテンスの枠組は全国数学教員協議会と全国理科教員協会による標準を参照し、州政府の専門資格基準委員会の承認を得た。7領域の51コンピテンスを各3単位の3科目に編成する。3科目を履修する順序は任意である (Plumlee 2016b : 2-5)。

学生は自発的で独立した学習者であって、読み書きの高い能力と、時間管理の能力が必要である。志願者が適性を判断する9問の自己評価票が大学のサイトにおかれている。各コンピテンスは事前評価、必要な活動の提示、事後評価からなる。活動とは授業計画の作成、現任校における授業の実施（ビデオ撮影）であり、事後評価はこれらの活動、口頭発表、授業の経験についての報告書などを対象に行う。多くの学生は3科目を2学期で完了する（ibid.: 6-9）。

（2）シアトル都市大学

ワシントン州の私立大学である。CBEによる教育修士課程として、教員養成課程の学士号をもつ教員を対象とするMEd（Master's in Education）と、それ以外の学士号をもつ者を対象とするMIT（Master's in Teaching）を2012年に開設した。大学全体の学修成果目標をふまえて、既存の教育修士課程を発展させ、州政府の基準と、主な就職先となる近隣学区の要望を調査してコンピテンスを作成し、ブルームの分類にそって知識、技能、応用に区分した（Oulahan and Klein-Collins 2015: 1-3）。

科目は数個のコンピテンスを含む学習塊（learning block）として提供される。ひとつの学習塊の学生は25名以内で、人数が多ければ分割する。学生は学習塊ごとに自己評価を行い、進行役である教員と相談してその学習塊を完了するまでの時間表を作成する。教員の個人指導が毎週あり、同じ学習塊にとりくむ学生同士の協力や、小集団を形成した協力がうながされる。5週間ごとに新しい学習塊が提示され、MITの学生は同時に2つまで、MEdの学生はひとつのみに参加できる（学習塊の大きさが異なり、MITは1から3単位、MEdは6単位）。ひとつの学習塊に要する時間は10週間と想定され、5から22週間まで認める。学習塊の内容は知識、技能、応用にわかれ、知識は試験によって、技能と応用は成果物や活動を評価表によって評価する（ibid.: 4-7）。

志願者に面接してCBEへの適性を判断している。MITではCBEの資料を提供し、説明会を開催して事前の理解を深めている。授業料は1単位あたり473ドルで、この大学に共通する金額である。認証は単位換算方式でなされ、連邦学生奨学金の資格がある（ibid.: 7-9）。

【附記】本研究はJSPS科研費19H01694の助成を受けた。

<注および文献>

- 1) 本稿に関連する近年の主な特集を示す。「リカレント教育・学習」（『社会教育』74（6）、2019年）、「大人が学ぶ大学」（『IDE 現代の高等教育』604、2018年）、「生涯学習社会における高等教育の役割と機能」（『日本生涯学習学会年報』38、2017年）、「大学と社会人学生」（『IDE 現代の高等教育』502、2008年）、「生涯学習」（『大学と学生』529、2008年）、「高度専門職業人養成—リカレント教育」（『大学と学生』466、2003年）、「職業とリカレント教育」（『教育と情報』388、1990年）。
- 2) 山田（1999）はレージス大学、森（2015）はサザンニューハンプシャー大学とウィスコンシン大学機構、青木（2017）はウェスタンガバナーズ大学、溝上（2017）はサザンニューハンプシャー大学とウェスタンガバナーズ大学、山田（2017）はブランドマン大学とウィスコンシン大学機

- 構, 五島 (2020) は Wisconsin 大学機構の紹介を含む。
- 3) Wertheim (2016 : 1-5), Council for Adult and Experimental Learning (2016 : 2-6, 10), Green (2016 : 2-3, 5-6), Klein-Collins and Olson (2014 : 2-6), Klein-Collins and Glancey (2015 : 1-6), Olson and Klein-Collins (2015 : 2-5), Plumlee (2016a : 2-5), Plumlee (2016b : 2-6), Oulahan and Klein-Collins (2015 : 1-4).
 - 4) Wertheim (2016 : 1-5, 7), Council for Adult and Experimental Learning (2016 : 7-9), Green (2016 : 3-4, 7-8), Klein-Collins and Olson (2014 : 6-8), Klein-Collins and Glancey (2015 : 9-11), Olson and Klein-Collins (2015 : 7-11), Plumlee (2016a : 8-11), Plumlee (2016b : 7), Oulahan and Klein-Collins (2015 : 6-7).
 - 5) Council for Adult and Experimental Learning (2016 : 9-11), Green (2016 : 7-9), Klein-Collins and Glancey (2015 : 11-12), Olson and Klein-Collins (2015 : 11), Plumlee (2016a : 11-12), Plumlee (2016b : 8-9).
 - 6) Wertheim (2016 : 6-8), Council for Adult and Experimental Learning (2016 : 6-7, 10), Green (2016 : 5, 7), Klein-Collins and Olson (2014 : 4, 9), Klein-Collins and Glancey (2015 : 7-9), Olson and Klein-Collins (2015 : 5-8), Plumlee (2016a : 6-8), Plumlee (2016b : 6-7), Oulahan and Klein-Collins (2015 : 4-9).
 - 7) 包括的な報告書 (Valenzuela et al. 2016) にも領域別の議論はない。
 - 8) 授業時数は課程により150–800時間である (Salt Lake Community College 2017a)。
 - 9) ウェブサイトには州内生の授業料が1時間2.4ドル, 手数料が1時間16セント, 受験料が40ドルとあり, 名称 (応用技術・専門技能科) とともに変更された (Salt Lake Community College 2017b)。
 - 10) コミュニティカレッジの補習教育機能である (山田 1997 : 270)。

青木久美子, 2017, 「『新しい』大学教育—コンピテンシーに基づく教育 (CBE) の実践」, 『日本労働研究雑誌』 687 : 37–45。

Council for Adult and Experimental Learning, 2016, *Lord Fairfax Community College : Knowledge to Work - A CBE case study*, Council for Adult and Experimental Learning.

五島敦子, 2020, 「米国大学における成人学生の学修支援—学位取得の阻害要因とその対策」, 『名古屋高等教育研究』 20 : 275–296。

Green, Meaghan, 2016, *Competency-Based Education at Peirce College : Bachelor of Science in Information Technology - A CBE case study*, Council for Adult and Experimental Learning.

イノベーション・デザイン&テクノロジーズ株式会社, 2016, 『社会人の大学等における学び直しの実態把握に関する調査研究報告書』平成27年度先導的の大学改革推進委託事業調査研究報告書。
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1371459.htm

岩崎久志, 2020, 「社会人大学院での学び直しに関する一考察」, 『流通科学大学論集—人間・社会・自然編』 32 (2) : 51–66。

金子元久, 2007, 『大学の教育力—何を教え, 学ぶか』筑摩書房。

- Klein-Collins, Rebecca and Glancey, Kathleen, 2015, *The Texas Affordable Baccalaureate Program : A Collaboration between the Texas Higher Education Coordinating Board, South Texas College, and Texas A&M University-Commerce*, Council for Adult and Experimental Learning.
- Klein-Collins, Rebecca and Olson, Rick, 2014, *Customized, Outcome-based, Relevant Evaluation (CORE) at Lipscomb University*, Council for Adult and Experimental Learning.
- Knowles, S. Malcolm, Holton III, F. Elwood and Swanson, A. Richard, 2015, *The Adult Learner : The definitive classic in adult education and human resource development*, eighth edition, Routledge.
- Mason, Jessica and Parsons, Kelle, 2019, *State of the Field : Findings From the 2019 National Survey of Postsecondary Competency-Based Education*, American Institutes for Research.
- 溝上智恵子, 2017, 「米国の事例—学習経験の単位化」, 『IDE 現代の高等教育』 590 : 50-55。
- 文部科学省, 2015, 「社会人の学び直しに関する現状等について」, 大学等における社会人の実践的・専門的な学び直しプログラムに関する検討会(第1回, 3月19日)資料3。 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/065/gijiroku/_icsFiles/fieldfile/2015/04/13/1356047_3_2.pdf
- 森利枝, 2015, 「米国の高等教育における competency-based education の展開に関する考察」, 『大学研究』 41 : 29-40。
- 内閣府, 2019, 『成長戦略フォローアップ』 6月21日閣議決定。
- 奥村旅人, 2019, 「『社会人の学び直し』に関する政策の現状と課題」, 『京都大学大学院教育学研究科紀要』 65 : 247-259。
- Olson, Richard and Klein-Collins, Rebecca, 2015, *Competency-Based Bachelor of Business Administration at Brandman University : A CBE case study*, Council for Adult and Experimental Learning.
- Oulahan, Kylie and Klein-Collins, Rebecca, 2015, *City University of Seattle (CityU) : Performance-Based Degree Model - A competency-based education case study*, Council for Adult and Experimental Learning.
- Plumlee, Tucker, 2016a, *Competency-Based Master of Business Administration at Davenport University : A CBE case study*, Council for Adult and Experimental Learning.
- Plumlee, Tucker, 2016b, *Competency-Based K-5 Science and Mathematics Teaching Endorsements at Valdosta State University : A CBE case study*, Council for Adult and Experimental Learning.
- Salt Lake Community College, 2017a, School of Applied Technology and Technical Specialties/Programs List. <http://www.slcc.edu/satts/program-list.aspx>
- Salt Lake Community College, 2017b, School of Applied Technology and Technical Specialties/Scholarships & Financial Aid. <http://www.slcc.edu/satts/cost-financial-aid.aspx>
- 戸澤幾子, 2008, 「社会人の学び直しの動向—社会人大学院を中心に—」, 『レファレンス』 58

(12) : 73-91。

塚原修一, 濱名篤, 2017, 「社会人の学び直しからみた大学教育」, 『日本労働研究雑誌』 687 : 27-36。

上杉孝實, 2011, 『生涯学習・社会教育の歴史的展開—日英比較の視座から』 松籟社。

Valenzuela, Ireri, MacIntyre, Donald, Klein-Collins, Becky and Clerx, John, 2016, *Prior Learning Assessment and Competency-Based Education : An Overview of Programs, Policies, and Practices*. <https://files.eric.ed.gov/fulltext/ED570321.pdf>

Wertheim, Judith, 2016, *Salt Lake Community College : Competency-Based Education in the School of Applied Technology - A CBE case study*, Council for Adult and Experimental Learning.

山田礼子, 1997, 「アメリカの高等教育政策とコミュニティ・カレッジ」, 『高等教育ジャーナル』 北海道大学, 2 : 267-282。

山田礼子, 1999, 「経験学習と単位の認定—ポートフォリオ形式による経験学習評価制度」, 『学位研究』 10 : 133-148。

山田礼子, 2017, 「米国における Competency-Based Education の進展—生涯学習と伝統型高等教育が交差する新たな像として」, 『日本生涯教育学会年報』 38 : 87-102。

Case studies of Competency-Based Education in the United States: Commonality and diversity in adult learning

Shuichi TSUKAHARA (Kansai University of International Studies)

In order to understand the recent situation of Competency-Based Education (CBE) in the United States, a national survey is outlined and case studies are analyzed.

In 2019, 64 American universities offered 588 CBE degree or certificate courses. About half of which were new and small. The education stages were 84% for bachelor's and associate's levels, and the entirely online courses were 37%, which meant that CBE was not synonymous with online. The main fields of undergraduate CBE program were nursing and health professions, computer and information sciences, business administration, and education. There were more students with credits and those over 25 years old compared to the traditional course, and the tuition fee was the same as or cheaper than the traditional course.

According to the case studies of nine new CBE courses conducted by Council for Adult and Experimental Learning from 2014 to 2016, the following points were about the same: the development and management of courses, the roles of teachers and mentors/academic coaches, selection of new students, and student learning processes. However, there were differences among education stages and areas in the framework of competencies, the approval of student credits, and the prior learning assessment of work experience and non-university learning and training.

CBE is significant as an authentic evaluation that shows the student learning outcomes by performance. It is a teaching method that structures student learning and is in the process of diffusion. The flexible pacing is suitable for adult learners, especially self-motivated independent learners with time management skills. In case studies, the prior learning assessment is more positive in business administration than in information technology. The current education system in Japan does not allow CBE. However, partial utilization of CBE will be useful for the higher education during COVID-19.